

## 論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第	号
------	-------	---

氏 名 新實 夕香理

論 文 題 目

情報プライバシーに配慮した患者情報の共有と保護のあり方  
に関する研究

論文審査担当者

主 査	名古屋大学教授	山内 豊明
	名古屋大学教授	玉腰 浩司
	名古屋大学教授	太田 勝正

## 論文審査の結果の要旨

人には他人に知られたくない情報がある。プライバシーは患者の尊厳を構成する重要な要素の一つであるが、自己情報コントロール権に基づく電子カルテ画面の表示法が取り上げられることは少ない。患者情報の共有ができるだけでなく、患者のプライバシー意識に対応した実現可能性のあるカルテ画面の表示方法として、一時的なモザイクを適用することによりプライバシーを保護できる表示方法を検討した。

本研究は、情報プライバシー保護への患者の要望と医療従事者間の情報共有の必要性のバランスを取った電子カルテ上の患者情報の表示方法を提示することを目的とし、医師、看護師、薬剤師、理学療法士などを対象に2つのステップから成るフォーカスグループインタビューにより実施した。第1の調査では患者情報の必要度を尋ね、第2の調査では考案した電子カルテの模擬画面の有用性と問題点を尋ねた。

本研究の新知見と意義を要約すると、以下の通りである。

1. 患者のプライバシーを考慮したカルテ画面の一時的非表示の条件とし、①必要時には直ちに情報を閲覧できること、すなわち need to know を確保できること、②患者のプライバシー上の要求があれば、一部の情報をモザイクにより非表示にできることを明確にした。
2. Patients' Information Privacy Scale に基づく 28 項目のプライバシー情報のうち、「氏名」「病名」「現病歴」等の情報は、どの職種でも単独またはチームで医療を進める上で必要度が高い一方で、「学歴」は必要度が最も低かった。多職種協働を考慮した場合に情報の必要度は、単独での業務に比べて高くなる傾向を明らかにした。
3. カルテ画面上の情報の一部を一時的に非表示にすることで、「医療の質」「医療の安全」「チーム医療の推進」等に影響する問題が生じる可能性があることを示した。
4. 一時的な非表示を解除する時には、「治療経過やプライバシー意識に応じた見え方」「閲覧場所などを限定した見せ方」「簡便なモザイクの外し方を備えた見せ方」「職種間の共有範囲を適切にした見せ方」を考慮する必要性を示した。
5. プライバシーに配慮した電子カルテ画面の一時的非表示は、患者の情報保護への要望を医療従事者が視覚的に理解でき、情報閲覧への配慮が必要なことを意識させる効果があることを明らかにした。

本研究により、電子カルテ上の患者情報への基本的アクセス権を奪うことなく、モザイクによる一時的非表示によりプライバシー情報の保護を実現できることを明らかにした。併せて、提案した画面表示法の医療従事者による受入れ可能性と問題点を明らかにし、患者のプライバシー保護と医療従事者の need to know を両立できる電子カルテ画面の表示方法を提示することができた。

これらの研究成果は Computers, Informatics, Nursing 誌に掲載された (Niimi Y, et al. CIN 2016; 35(2) : 100-108, IF=1.301)。以上の理由により、本研究は博士(看護学)の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。